

# ほすびたる



平成18年 2006.8

公立豊岡病院組合広報紙 第12号

豊岡病院/日高病院/出石病院/  
梁瀬病院/和田山病院

## 公立豊岡病院に

## “へき地医療研究所”開設

4月から豊岡病院に設置されました“へき地医療研究所”の石田助教授にお話をお伺いしました。



神戸大学大学院  
医学系研究科へき地  
医療学講座  
石田 岳史 助教授

はじめまして、平成18年1月1日神戸大学大学院医学系研究科に新しく“へき地医療学講座（兵庫県の寄附講座）”が開設されました。私は同講座責任者の石田岳史と申します。私の他に助手の見坂恒明が当講座に所属しております。講座開設の目的は保健・医療・福祉の連携がスムーズである

但馬地域を一つの医育機関と見立て、医学生・研修医に但馬へ来てもらい、学生のうちから地域医療に親しみを持ってもらうことです。その活動拠点として3月に公立豊岡病院内に“へき地医療研究所”を設置しました。マスコミで連日取り上げられている“地方の医師不足”は、ここ但馬においても最重要課題かと思えます。医師不足の背景には新臨床研修制度により医学部教育が実質6年だったところが8年に延長されたことがあげられますが、医師の大都市指向・専門医指向も無視できません。神戸大学医学部の学生はその多くが都市部出身者であるため、勤務する医療機関も必然的に都市部の大病院に集中する傾向が見受けられます。確かに高度先進医療の研修を行うには都市部の大病院が適していると思われれます。しかし医療費高騰が国家財政を圧迫し、医療費の患者負担が益々増加する中、最も必要とされる医師は臓器別専門医ではなく、幅広い知識と技術を兼ね備えた総合医・家庭医であると言われていています。総合医に



最新の携帯型エコーを使って検査をされる様子。診療支援や病院職員への技術指導もいただいています。

（於：和田山病院）

求められる技術は救急対応から始まり、慢性疾患の管理、各専門医との橋渡し、保健福祉との連携です。これらのことが幅広く学べる環境は阪神間より但馬の方が適しています。但馬に若い医者が行きたくくなるような教育環境を作り、但馬の医療機関が活性化できればいいなと考えています。

また当講座は4月から但馬地域での診療支援も行っております。現在、火曜日午前に公立和田山病院で循環器疾患・生活習慣病（肥満・糖尿病・高血圧・高脂血症等）を中心にした専門外来を行っております。また専門医による心エコー検査も可能です。水曜日午前に公立村岡病院で循環器外来、金曜日午前には公立日高病院で総合内科外来を行っております。神戸大学病院との病々連携も可能ですので、御相談頂ければと思います。

### 今号の主な内容

- 特集!  
医療機器紹介 ……(P2)
- 医局だより  
～口腔癌にならないために～(P3)
- 新しい治療法の導入 …(P4)
- コラム—施設間差— …(P4)
- 新任医師紹介 ……(P5)
- 豊岡病院からお知らせ (P6)

## 最新の医療機器を導入しています(公立豊岡病院)

新病院への移転に合わせ、いろいろな新しい医療機器が導入され、診療の場で活躍しています。5回目となる今回は放射線科の“血管造影装置”についてご紹介いたします。

### 血管造影装置(血管造影検査)

#### 検査から治療へ

アンギオ検査とは、カテーテルと呼ばれる細い管を血管に挿入し、そこから造影剤を用いて血管の撮影を行う検査です。この検査では、体のいろいろな部分の血管の形態や血液の流れを観察するだけでなく、がん治療としてがん病巣に栄養や酸素を送っている血管に治療薬や血管をつめる物質を注入してがんを兵糧攻めにしたりします。

また、急性心筋梗塞のように心臓の血管が血栓(血の塊)などにより詰まってしまった時、その血管までバルーン(風船)のついたカテーテルを挿入しバルーンをふくらませて血管を元の太さにまで広げたり、またそこにステント(網状の金属)を置いたりする治療もします(図4)。このような治療を一般的にインターベンショナルラジオグラフィー(IVR)と呼びます。

#### 迅速な対応が可能となりました

旧病院では、血管造影検査をするための装置は1台でしたが、新病院になり頭部・腹部用血管造影装置(図1)、循環器用血管造影装置(図3)の2台を導入しました。2台になったことにより互いにバックアップができ、緊急検査・治療により迅速な対応が可能となりました。

新病院の頭部・腹部用血管造影装置は通常の血管造影装置とマルチスライスCTを組み合わせたシステム(IVR-CT)です。これによりアンギオ検査とCT検査が同一の寝台で行えることができるようになり、CT検査で部屋を移動することなく迅速に行えるようになりました(図2)。

アンギオ装置及びCT装置は、それぞれ旧病院に比べ高精度、高画質な画像が得られるようになり高度なIVRが可能となりました。また、それぞれの装置は単独でも各々の性能を十分に発揮できるシステムとなっています。



図1 頭部・腹部用アンギオ装置

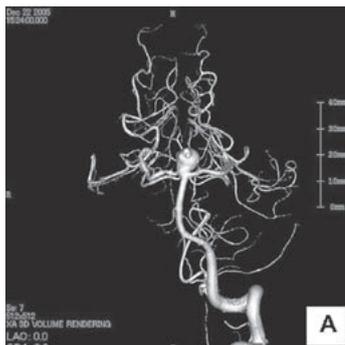
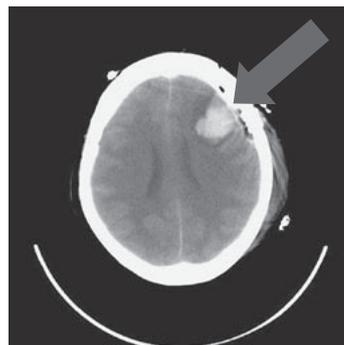


図2 脳動脈瘤(アンギオ)



脳出血(CT画像)



図3 循環器用アンギオ装置

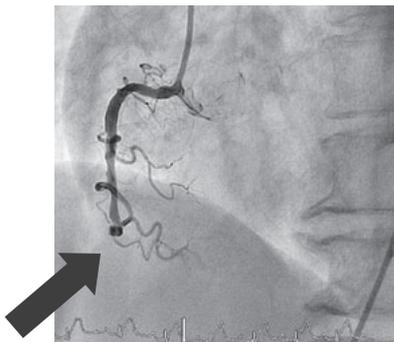
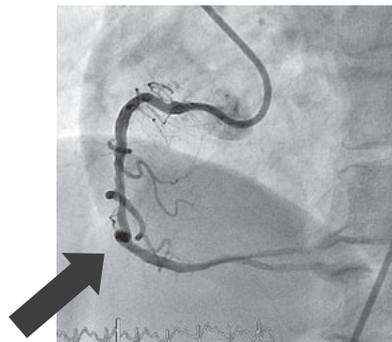


図4 急性心筋梗塞(治療前)



(治療後)



# 医局だより 口腔癌にならないために

公立豊岡病院 歯科口腔外科

あまり聞きなれない“がん”ですが、口腔癌（こうくうがん）という“がん”があります。口腔癌は、舌、歯肉、頬粘膜、口底をはじめとする口の中にできる癌のことをいいます。日本口腔腫瘍学会や日本頭頸部癌学会の調査によると、最近になって、口腔癌は咽頭・喉頭など「のど」や食道、胃、さらには肺の癌と重複または多発する傾向にあるといわれています。これまでの多くの施設からの発表や調査から判明したことのうち一番重要なことは、喫煙と過度の飲酒がこの領域の癌の発生に強い誘因として関わっていることです。さらに、喫煙と過度の飲酒が誘因となって口腔以外に「のど」、食道、胃などいくつかの領域にまたがって広く発癌する現象も認められ、これは広域発癌といわれて、最近注目されています。この場合の治療は、難渋することが容易に想像できると思います。

喫煙が虚血性心疾患や他の種々の癌など多くの疾患の誘因であり、受動喫煙も含めて健康に悪影響を及ぼすことは、今や周知の事柄になりつつあります。平成15年5月「健康増進法」の発効、および平成16年6月WHO「たばこ規制枠組み条約」の批准などで、わが国においても具

体的な禁煙対策が進んでおり、各種学会や団体と同様に、日本口腔腫瘍学会でも、平成15年に学会として「禁煙宣言」が出されました。現在、当院の禁煙対策として、決まった場所では喫煙できない完全分煙が行われていますが、今後は敷地内完全禁煙となるかも知れません。



飲酒に関しても、平成15年にWHOにより、中・下咽頭癌、口腔癌、食道癌が飲酒関連癌であるとされました。日本人には、アルコールが代謝される過程で産生される毒性の強いアセトアルデヒドが蓄積されやすい体質の人が多く、そうした人では少量の飲酒でも健康に悪い影響が現れ、より飲酒関連癌にかかりやすいことがわかっています。

口腔癌あるいは頭頸部癌を診断・治療・研究してきた上記学会より、この度喫煙のみならず飲酒に関しても、積極的な発癌予防対策が必要との考えから、「禁煙・節酒宣言」が出されました。口腔癌にならないために、何ができるでしょうか？

どうか皆様には喫煙と過度の飲酒を止め、禁煙・節酒を心がけるようお願いいたします。



## リハビリテーションの上限日数について

リハビリテーションはこれまで医療保険が使える日数に上限がありませんでしたが、平成18年4月の診療報酬の改訂により新たに上限日数が設定されました。一部の「除外規定」に該当される方以外は、発症から各疾患別に上限日数が決められ、脳卒中など脳血管疾患が180日、心大血管疾患が150日、骨折等の運動器が150日、呼吸器が90日です。

4月1日から始まった新たな制度ということで、4月以前からリハビリを受けておられた方は4月1日からの日数で計算されます。つまり医療保険でリハビリが実施できる期限は、呼吸器6月29日まで、運動器8月28日まで、脳血管疾患9月27日までとなります。介護保険の訪問リハビリや通所リハビリなどの対応の出来る施設が少ない現状では、多くの方々にご迷惑をおかけすることになります。

### 脳血管疾患等 リハビリテーション

脳血管疾患  
脳腫瘍  
脊椎損傷 等

原則180日

### 運動器 リハビリテーション

上・下肢の複合損傷  
上・下肢の外傷・骨折の術後  
熱傷瘢痕による関節拘縮 等

原則150日

### 呼吸器 リハビリテーション

肺炎・無気肺  
開胸手術後  
肺梗塞 等

原則90日

今後、多くの患者様が一齐に日数制限を迎えることとなりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 豊岡病院眼科から

## 新しい治療法の導入のお知らせ

今年6月から、加齢黄斑変性症（かれいおうはんへんせいしょう）の新しい治療法である、光線力学的療法（PDT）を始めました。

## 加齢黄斑変性症とは

加齢黄斑変性症とは、眼球の中にある網膜<sup>※1</sup>の中心に、新生血管<sup>※2</sup>が生え、出血や網膜はく離をおこし、見ようとするとところが見えなくなったり、ゆがんで見えたりする怖い病気です。おもに50歳以上の方に起こります。

## 光線力学的療法（PDT）治療の効果

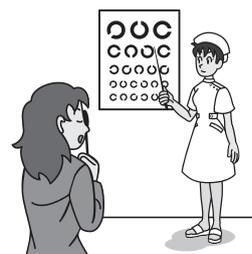
今までの治療法では、視力が0.1以下に下がることが多かったのですが、PDTによって、ある程度は視力の低下を防ぐことが可能となりました。

## 豊岡病院で検査、日高病院で治療します

豊岡病院で眼底検査、造影検査（眼底写真をとります）など診断を行い、日高病院に入院していただいて治療を行っています。治療方法ですが、まず、レーザーに反応するお薬を腕から注射し、15分後、弱いレーザーで83秒間、お薬

が集まった目の奥の病気の部分を照射します。（痛みはありません。）これにより、網膜をできるだけ傷めずに、新生血管のみを焼くことができます。治療後はお薬が体から完全に排出される5日後まで、直射日光を浴びないように注意します。（管理のため、4日間入院していただきます。）

もう片方の目があるから大丈夫とっていても、この病気は両目に起こることが多いので注意が必要です。片目ずつで見て、ゆがんで見える、または、視力が下がっていると感じたら、早めに眼底検査を受けましょう。



※1 網膜（もうまく：光を感じる神経の膜） ※2 新生血管（しんせいけっかん：異常な血管）

## 施設間差 って知ってますか？

## COLUMN

“施設間差”って聞いたことはありますか？ちょっと耳慣れないことばですが、病気になって病院に行くと、必ずといっていいほど採血をしていろいろな検査をします。これは、患者様の病態の把握や治療効果を知る上で非常に大切なことなのです。通常、ごく一般的に行っている血液検査だけでも約100種類ほどあります。ところが、それぞれの検査の値が病院によって差があるのです。これが“施設間差”です。施設によって基準値（正常値）が異なることを前提に結果を評価しなければなりません。

では、どうしてこのように不便なことになってしまったのでしょうか。それは、それぞれの病院の検査科で行う測定方法が異なるからです。測定方法は、検査項目によって数種類から十数種類もあります。希釈せずに高

濃度まで測定可能なもの、血中に共存する他の物質の影響が少ないものや試薬の安定性のあるもの、経済性に優れたもの、検査の迅速化に適したものなど、多種多様にあります。また、測定に使用する分析装置も数多くの製造メーカーがあって、それぞれ特性があります。病院にとって、規模や地域性、経済性など条件が異なる中、その施設に適した検査方法や分析装置が採用されてきたため、“施設間差”は、無くなりませんでした。

近年、一部の酵素活性検査において、日本医師会が中心となって標準測定法や国際単位の使用の推進、また、日本認証酵素標準物質が市販されるようになってからは、酵素活性の施設間差はほぼ無くなりました。これからも検査の統一化の方向へ進んで行くことでしょう。



7月 病院機能評価、和田山病院で新たに認定!!

病院機能評価とは、第三者機関である(財)日本医療機能評価機構が患者様と病院との中立的視点で、病院の療養環境や診療の質などを総合的に評価・分析し、一定の認定基準に達していると評価された病院が認められるものです。当組合では、豊岡病院、出石病院、梁瀬病院に続いて4番目の認定となりました。病院機能評価は、バージョンが更新される毎に難度を上げ、今回、和田山病院で受審した“バージョン5”は、初審認定率20%弱ともいわれる難関でした。書面審査と訪問による審査に向け、一丸となったこの取組みの結果は、職員全員の大きな自信と喜びとなりました。大変厳しい医師不足の中ですが、職員全員で勝ち取った認定でした。今後、さらに質の高い安全な医療の継続・取組みを目指していきます。



日本医療機能評価機構  
認定シンボルマーク

新任医師紹介

平成18年4月2日から7月1日までに新たに職員になりました!!  
よろしくお願いたします。(採用順)



豊岡病院 整形外科  
医師 福本 たくもと



梁瀬病院 内科  
医師 守本 明枝



和田山病院 内科  
医師 池上 宏美



豊岡病院 麻酔科  
医師 一澤 真珠

退職医師紹介

お世話になりました!  
(平成18年4月2日～6月30日)

梁瀬病院 内科 寺下 聡  
豊岡病院 消化器科 北村 厚  
豊岡病院 消化器科 三村 憲一  
豊岡病院 心臓血管外科 横山 和人



平成19年度 職員募集のお知らせ

試験職種	採用人員	試験科目	受験資格	受付期間	試験日と会場
《看護職》 助産師 看護師	20名程度	・教養試験 ・作文試験 ・適性試験 ・面接試験 ・身体検査	○助産師 助産師免許取得見込みの者、または助産師の免許取得者(いずれも昭和47年4月2日以降に生まれた人) ○看護師 看護師の免許取得見込みの者、または看護師の免許取得者(いずれも昭和47年4月2日以降に生まれた人)	9月1日(金) ～ 9月28日(木)	10月18日(水) 公立豊岡病院 講堂
《事務職》	若干名	●一次試験 ・教養試験 ・論文試験 ・適性試験 (ただし、経験者は適性試験を除く) ●二次試験 ・面接試験 ・身体検査	○一般 来春4年制大学卒業見込みの者、または4年制大学卒業業者(いずれも昭和54年4月2日以降に生まれた人) ○民間企業等経験者(Uターン等即戦力の人材) 4年制大学卒業業者(昭和37年4月2日から昭和47年4月1日までに生まれた人)	8月7日(月) ～ 8月31日(木)	●一次試験 9月17日(日) (一般) 公立豊岡病院講堂 (経験者) 公立豊岡病院組合統轄管理事務所 第1会議室 ●二次試験 (一般) 10月中旬～11月上旬 (経験者) 10月下旬～11月上旬
《医療技術職》 薬剤師 診療放射線技師	若干名	・教養試験 ・作文試験 ・面接試験 ・身体検査	○薬剤師 薬剤師免許を取得見込みの者、又は薬剤師資格免許取得者(いずれも昭和54年4月2日以降に生まれた人) ○診療放射線技師 診療放射線技師免許取得見込みの者、又は診療放射線技師免許取得者(いずれも昭和55年4月2日以降に生まれた人)	9月1日(金) ～ 9月28日(木)	10月25日(水) 公立豊岡病院組合統轄管理事務所 第1会議室

- ◎募集要項は平成18年7月31日から配布します。
- ◎身体検査は、身体検査書の提出とします。
- ◎採用試験合格者であっても、平成19年春に卒業できなかった者、採用に必要な免許を取得できなかった者は採用を取消します。

《問い合わせ先・募集要項配布場所》

統轄管理事務所 総務部人事課  
〒668-8501 兵庫県豊岡市戸牧1094番地  
TEL (0796)22-6111 内線2103・2113

# 公立豊岡病院からのお知らせ

7月1日から

診療体制縮小にご理解ご協力をお願いします

## ◆ 消化器科を総合内科へ統合し、外来診療体制を縮小

公立豊岡病院では、消化器科医師の減員と専門医の不在に伴い、7月1日から消化器科を総合内科へ統合し、名称を総合内科（消化器科）に変更するとともに、外来診療体制を縮小しています。これにより、診療枠数が大幅に減少しますので、症状の安定している外来・入院患者さんについては他の医療機関へ紹介をさせていただきます。また、事前に予約をされていない外来患者さんは、来院されても受診できないこともあります。

なお、診療体制の縮小に伴い、医師・看護師などによる相談窓口を設置しますので、お悩みのこと、不明なことがありましたら窓口お気軽にご相談ください。

### 【相談窓口】総合案内

(1階正面玄関に入ってすぐ左手のカウンター)  
TEL 0796-22-6111

### —7月以降の診療体制—

平成18年3月時点では5人の医師体制でしたが、7月以降は2人の医師体制となり、週1回の日高病院からの応援診療と豊岡市医師会の協力による舟木外科胃腸病院から医師の派遣（大腸内視鏡検査）を受けて行っています。

平成18年3月まで

常勤医 5名

平成18年7月以降

常勤医 2名

- + 日高病院から週1回の応援診療
- + 舟木外科胃腸病院からの医師派遣(大腸内視鏡検査)

◇消化器疾患の患者さんは、総合内科（消化器科）で診察します。（従来からある総合内科でも受診可）

◇救急患者さんのうち重度の消化管出血等については、専門医がいいため豊岡病院で受け入れできないことがあります。

## ◆ 小児科は、午後の一般診療は水曜日のみ

これまで小児科の一般診療（予約でない患者さん）は、午前は毎日、午後は月・水・金曜日の3日間行っていましたが、小児科医師の減員により、7月から午後診療は水曜日のみとなっています。ご了承ください。なお、午後の予約診療については変更ありません。

## ◆ 7月以降の総合内科(消化器科)/小児科の診療体制

診療科名	午前・午後	月	火	水	木	金	
総合内科 (消化器科)	午前	初診	(休診)	初診・再診	予約診(薬)	(休診)	初診
	午後	再診	予約診	(休診)	(休診)	再診	
小児科	午前	初診・再診	初診・再診	初診・再診	初診・再診	初診・再診	
	午後	予約診 (腎臓・心臓外来)	予約診 (アレルギー外来)	初診・再診・予約診 (発達外来)	予約診 (アレルギー外来)	予約診 (神経外来)	

※総合内科(消化器科)は、診療枠数が大幅に減少していますので、当日お越しになっても受診できないことがあります。

### 編集後記

「外科医ゼロ、小児科縮小、救急は夜10時まで」…。医師不足で最近はこのような記事をよく目にします。但馬だけでなく日本中どこでも同じで、各地の病院で機能の見直しなどが行われています。但馬でも医療提供を見直すための委員会が作られました。但馬の医療関係者が一体となって、この地の医療提供体制が確保され続けることを切に願います。

《編集委員 Y》

◇発行 公立豊岡病院組合 ◇〒668-8501 豊岡市戸牧1094 ◇TEL 0796-22-6111(内線2111)

◇URL : <http://www.toyookahp-kumiai.or.jp/> ◇E-mail : [kikaku@toyookahp-kumiai.or.jp](mailto:kikaku@toyookahp-kumiai.or.jp)

●本紙掲載の写真・イラスト・記事の無断使用・無断転載は禁じます。